

第98回「萩句会報告」 (順不同)

日時 2017年9月11日(月) 14時～17時

兼題「台風、野分」

- 川井素山 ○雁渡る山河しるべの旅路かな
備長炭に蒲焼けぶる野分かな
昨夜の雨のせて地を這ふ萩の群
古民家の土間の竈や蚊の名残
- 保井寶正 ○台風一過赤子の瞳あをあをと
新涼やミケランジェロの素描の美
野に立ちて野分のこころ一人聴く
トンネルを出るやいなやの秋の蝉
- 後藤克彦 ○野分^{あと} 破れ繕ふくもの糸
蝉時雨ダイヤ乱れの無人駅
舌染むる苺シロップかき氷
軒下の空の虫籠見上ぐ猫
- 佐久間喬 ○雨上がり笑ひはじける庭花火
熱気球風をとらえて大花野
そこかしこ爪痕残し野分晴れ
ハンモック3人乗りて叫ぶ子等
- 丸山酔宵子 ○雨傘を杖にホロ酔ひ野分晴
立ち直れ垂れたオリーブ野分あと
雨上り西陽背に受け新豆腐
天空の星屑消える野分あと
- 菊地崇之 ○差し向ひ亡妻語らむ長き夜
古^こは野分^{きん}今には地変人助く
陽に入りて輝き燃ゆる赤トンボ
ベランダや耳に染み入る秋の宵
- 吉田啓悟 ○しらぎくにむかしの人を迎へけり
鉦鳴らししかと阿呆や阿波踊
恥さらす吾を野分よ風沙せよ
雲遠く置き立秋の朝散歩

青木英林 ○二人連れ萩トンネルに姿消す
颱風の過ぎし浜辺に早やサーファー
鈴蟲の身を震わせて求愛す
稲の花咲き揃ひたり可愛げに

佐久間たか子 ○ミニ盆栽 ^{みしょう}実生 鶏頭朱色なる

天守より武者の ^{おも}念いに秋の風
秋澄むや輝き迫る山の嶺
紅の夕焼けはこび野分さる

山本草風 ○羅 ^{うすもの}着はじらいも着る乙女かな
月暴く世相の乱れ襷深し
観る人に爽気もたらず球児たち
一斉に稲穂寝そべる野分かな

金森純女 ○人里を離れし宿の茶立虫
とうきびを貫く道や野分ゆく
金木犀ぼろんぼろんと降りしきり
きぬかつぎにゆつと喉へと飛びこめり

佐伯兵庫 ○仕事馬鹿抜け出し秋の雲にのる
夫婦みち時だけ頼み野分かな
新涼や朝のジョギング下す袖
揺れる波安らぎ聞こゆ秋桜

渡辺鯨波 ○野分中娑婆は名医を偲ぶ会
野分晴銀座四丁目で歯石取る
指先の諸悪を照らす夕螢
猫カフェでのんびんだらり野分中

澁谷瑠璃 ○夜学とは千の孤独の集う場所
目黒にて群れる秋刀魚と群れぬ我
台風のもう片方の眼は何処
津軽・ふじ・ジョナゴールドも描き分ける

石川智子 ○葬列の少女の髪に野分立つ
良夜かな今日の自分をほめておく
締切の原稿かかえ野分かな
天の川時も止まりて流るかな

原 晶如 ○膨れたる川てらてらと野分晴
棚田道三段跳びに飛蝗飛ぶ
秋澄む日路地へ一步の旅心
水墨の山紅に残暑の陽

次回「萩句会」

日時 2017年10月9日(月)14時～17時

場所 下目黒住区センター第二会議室

兼題 『愁思』一句 当期雑詠三句 計四句